

米国 製造業が下振れも暖房需要に支えられ鉱工業は加速(17年3月鉱工業生産)

公表日：2017年4月18日(火)

～製造業の拡大モメンタムは強いまま～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 桂畑 誠治

03-5221-5001

	鉱工業生産		製造業 (NAICS)	鉱業	公益	ハイテク 関連	除ハイテク 関連	自動車関連	設備稼働率	製造業 (SIC)	生産能力
	▲	(▲)									
16/03	▲0.7	(▲2.4)	▲0.2	▲1.8	▲3.3	+0.5	▲0.3	▲1.7	+75.4	+75.2	▲0.0
16/04	+0.3	(▲1.7)	▲0.0	▲2.3	+6.1	+0.2	+0.0	+1.7	+75.6	+75.1	▲0.0
16/05	▲0.1	(▲1.5)	▲0.2	+0.5	▲0.2	+0.6	▲0.3	▲3.2	+75.6	+75.0	▲0.0
16/06	+0.4	(▲0.8)	+0.2	▲0.4	+2.2	+0.2	+0.1	+3.9	+75.8	+75.1	+0.0
16/07	+0.1	(▲1.2)	+0.1	▲0.2	+0.6	+0.8	+0.0	+0.8	+75.9	+75.1	+0.0
16/08	▲0.1	(▲1.3)	▲0.4	▲0.2	+2.1	+0.3	▲0.4	+0.2	+75.8	+74.7	+0.0
16/09	▲0.2	(▲1.2)	+0.2	▲0.3	▲2.8	+1.3	+0.2	+0.4	+75.6	+74.9	+0.1
16/10	+0.2	(▲0.8)	+0.2	+2.0	▲1.9	+1.5	+0.3	+0.8	+75.7	+75.0	+0.1
16/11	▲0.2	(▲0.4)	+0.2	▲0.0	▲3.2	+0.7	+0.1	▲1.4	+75.5	+75.1	+0.1
16/12	+0.8	(+0.8)	+0.2	▲0.5	+6.9	+0.4	+0.1	+1.2	+76.0	+75.2	+0.1
17/01	▲0.3	(▲0.0)	+0.4	+1.3	▲6.8	▲0.3	+0.4	▲1.0	+75.7	+75.4	+0.1
17/02	+0.1	(+0.3)	+0.3	+2.9	▲5.8	▲0.5	+0.5	+1.1	+75.7	+75.6	+0.1
17/03	+0.5	(+1.5)	▲0.4	+0.1	+8.6	+0.4	▲0.5	▲3.0	+76.1	+75.3	+0.1

3月の鉱工業生産は 前月比+0.5%と加速

17年3月の鉱工業生産は、前月比+0.5%と市場予想と一致した(過去の数字は0.1%p 下方改定)。製造業が減少したほか、鉱業が鈍化したものの、気温の低下による電力・ガス需要の拡大で公益事業が加速した。

鉱業が原油価格の上昇を受けた石油・ガスの掘削などの拡大を背景に3ヶ月連続の増加となったが、高い伸びが続いていたこともあり前月比+0.1%と減速した。また、製造業生産は前月比▲0.4%と市場予想の0.0%に反して、7ヵ月ぶりの減少となった(過去の数字が0.3%p 下方改定)。3月は自動車産業など多くの業種で生産の縮小が確認された。ただし、製造業では、ドル高の影響を受けながらも、自動車を含め在庫に過剰感がないほか、世界的な経済成長の再加速が予想されることから、一時的な調整と判断される。一方、公益事業は気温の低下によって暖房需要が増加したため前月比+8.6%と3ヵ月ぶりに拡大した。

業種別では、コンピューター・電子機器、化学が増加に転じたほか、石油・石炭が加速した。また、木材、家具・関連製品、繊維が減少幅を縮小した。一方で、非鉄、一次金属、加工金属、一般機械、自動車・同部品、その他耐久財、食品・飲料・タバコ、印刷・同サポート、プラスチック・ゴム製品、その他製造業が減少に転じたうえ、電気設備・部品、航空機・その他輸送設備、アパレルが減少幅を拡大した。さらに、紙は鈍化した。

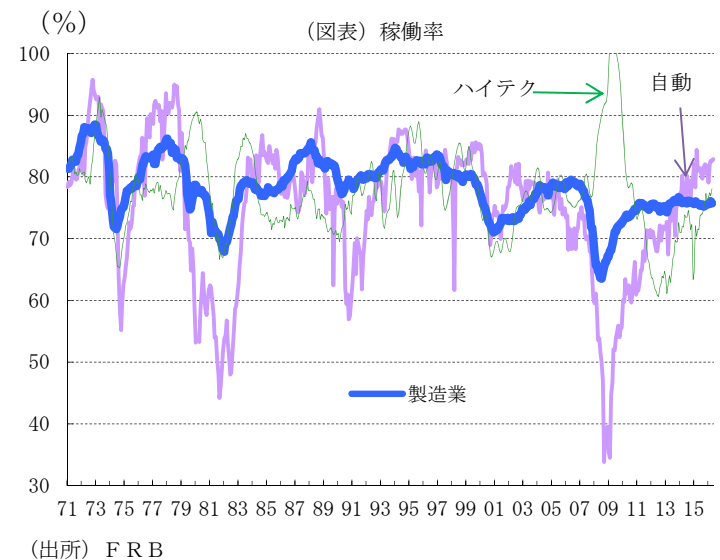
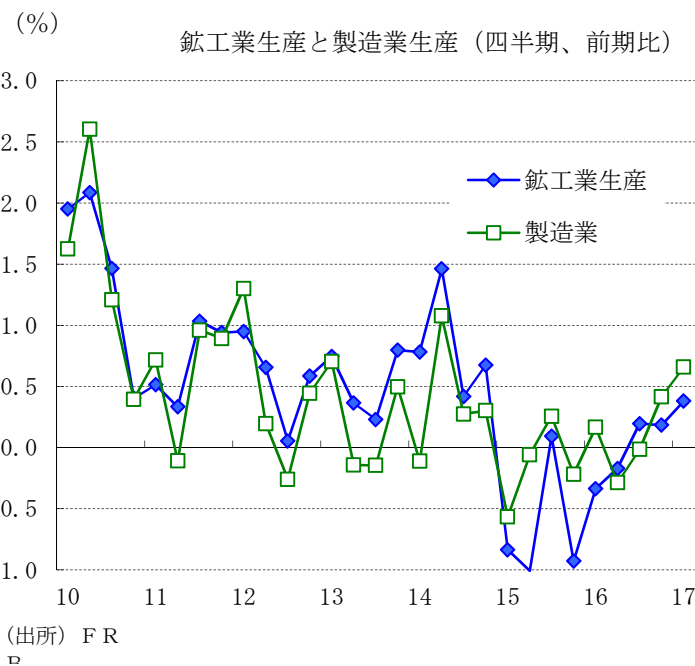
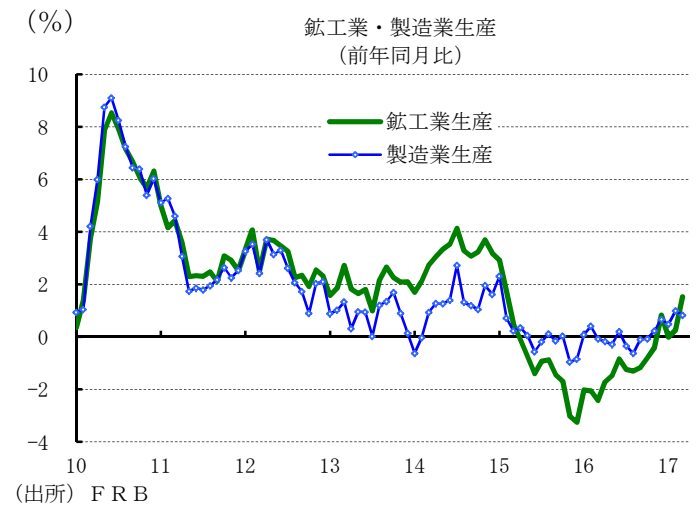
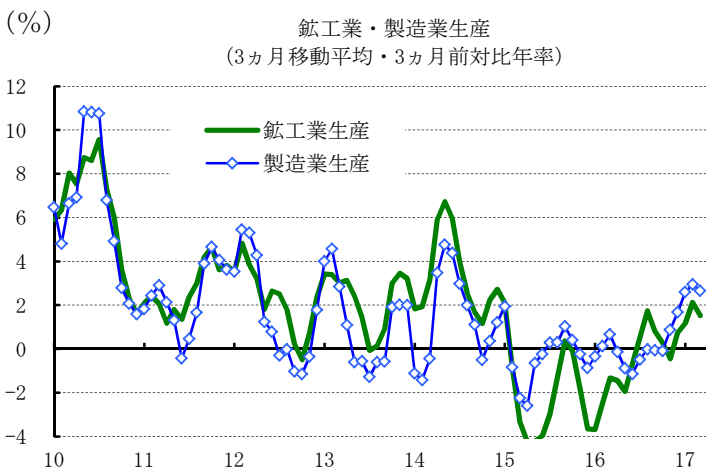
稼働率では、投資の持ち直しにより生産能力が増え始めた一方、生産が加速したことを背景に鉱工業全体が76.1%(前月75.7%)と上昇し、市場予想と一致した。一方、製造業は75.3%(前月75.6%)と低下した。

生産活動は緩やかな改善を続ける見込み

3ヶ月移動平均・3ヶ月前対比年率では、鉱工業生産が公益の急減や、製造業の鈍化を背景に+1.5%（前月+2.1%）とプラス幅を縮小した。ただし、製造業生産は、+2.7%（前月+2.9%）とプラス幅を縮小したが、拡大モメンタムは強いまま。

四半期では、1-3月期の鉱工業生産（平均）は、温暖な天候による公益の大幅な落ち込みにもかかわらず鉱業や製造業の拡大を背景に前期比年率+1.5%（10-12月期同+0.7%）と加速した。1-3月期の製造業生産（平均）は、前期比年率+2.7%と10-12月期の同+1.7%からプラス幅を拡大し、経済活動の活発化を示している。販売に頭打ち感がでている自動車・同部品等が減少に転じた一方で、非鉄、一次金属、加工金属、石油・石炭が加速したほか、一般機械、電気設備・部品、食品・飲料、プラスチック・ゴムが増加に転じた。

今後の鉱工業・製造業生産活動は、堅調な国内需要、原油価格の上昇、在庫調整の進展を背景に押し上げられるものの、ドル実効レートの高止まりの影響を受け、緩やかな拡大が予想される。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。